

# 平成 19 年度 K. CAT 活動報告～歴史文化資産を活かしたまちづくりを目指して～

《背景》 旧城下町の歴史的な都市構造、伝統工芸・伝統産業、歴史文化資産の存在と減少、市街地整備の進行、近代的都市景観との調和 等

金澤の歴史文化資産の価値を守り、活かすまちづくりのあり方を考える

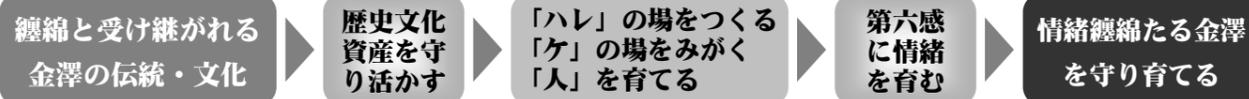
第9回K. CATフォーラム

「歴史文化資産」を活かした「金澤づくり」を考える 住んで良し・訪れて良しのまち

## 赤組の提案 (提案の要素…町家/庭園/用水)

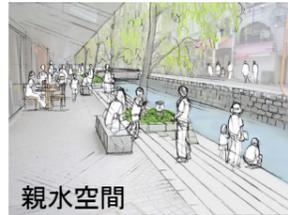
《テーマ》

情緒纏綿たる金澤を守り育てる ～第六感に伝える金澤のハレとケ～



《提案内容》

- 町家**
  - ◆金澤町家三団の創設
    - ・鑑定団 (金澤町家の無償鑑定、不動産流通価格への反映)
    - ・活用団 (町家相談所の開設、新たな活用方策の提案)
    - ・創造団 (現存する町家の修復と改良、将来の本物づくり)
  - ◆美しい屋根並み形成 (黒で統一→美しい眺望景観の形成)
- 庭園**
  - ◆お庭三隊の設立
    - ・守り隊 (家庭の庭を無償診断、庭の手入れのお手伝い)
    - ・作り隊 (作庭相談の受付、ニーズに合わせた作庭)
    - ・見せ隊 (お庭ガイドが庭園を案内→ガイド料を活動資金として活用)
  - ◆町衆庭園を作る (まちなかの空地・駐車場を地域で作るもてなし空間に)
- 用水・河川**
  - ◆平成用水の整備 (まちなかに潤いを ex. タテマチ)
  - ◆用水に親水空間を整備 (せせらぎを見る・聴く・触れる ex. 109 裏)
  - ◆水辺で食を味わう (栈敷の設置、水上レストラン ex. 犀川、浅野川)
- 三要素**
  - ◆ハレの場をつくる (金澤町家・町衆庭園・平成用水で新たな名所づくり)
  - ◆ハレの場をつなぐ (用水や堀で道案内→新観光ルート設定)
  - ◆ケの場を磨く (身近に存在する歴史文化資産の素晴らしさを再認識)
  - ◆人を育てる (住人の意識向上、職人の技能向上)
  - ◆金澤通人を育む (金澤通の人、金澤に通う人、金澤ファン)



## 青組の提案 (提案の要素…用水/広見/町割)

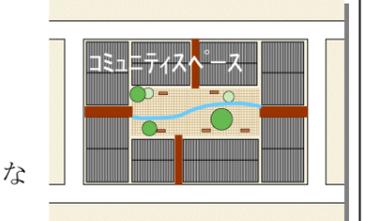
《テーマ》

金澤を磨き「大金澤」へ ～文化は都市を造景する～



《提案内容》

- 都市の美を磨く**
  - ◆用水を動力源に活用
    - ・休耕田等で菜種を栽培→水車で油をひいてバスやゴミ収集車の燃料に
    - ・地元産の米粉・小麦を水車でひいてパンや麺づくり→地産地消の食の提供
    - ・落差を利用して水力発電→クリーンエネルギーでまちをライトアップ
  - ◆広見を地域コミュニティの場に活用 (コミュニティ広場)
  - ◆小路の防災対策
    - ・2mの隅切り確保 (住民で土地を出し合う)
    - ・現代の広見づくり→コミュニティ防災広場 (防災倉庫、天水桶設置)
    - ・金澤版二輪消防車両の導入→機動力のある消化活動
  - ◆町割の再編
    - ・ライフスタイルに合わせて再編 (隣接の空家の売買等)
    - ・コミュニティスペースの確保、小路の創出 (災害時の避難路)
    - ・新職人町の形成 (共同作業場、共同誘客ゾーン、異業種交流から新たな産業の創出)
- 文化と産業の融合**
  - ◆脱・小京都運動 (金澤固有の価値の明確化)
  - ◆三年世界博 (3年周期で、毎年1つの伝統産業等の世界博を開催)
    - ・フォーラムで情報交流、広見サテライト見本市、職人派遣で技術交流
  - ◆本社金澤協定 (金澤に軸足を置いて全国・世界で活躍)
  - ◆世界との文化交流 (フォーラムに外国人を呼ぶ運動など)



《課題》

- ・来訪者と居住者のバランス (観光客が望む“変わらない金澤”⇔居住者の“多少の不便さ”)
- ・新幹線の開業・東海北陸自動車道の開通による三大都市圏との距離感の変化を踏まえた、今後の金澤のポジションの捉え方、まちづくりの取り組み方